

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12337

研究課題名(和文) 保健師のグローバル・コンピテンシーと教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Public Health Nurses' Competency and Educational Programs for Globalization

研究代表者

小寺 さやか (Sayaka, Kotera)

神戸大学・保健学研究科・准教授

研究者番号：30509617

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル社会に対応できる保健師に必要な能力とその修得を目的とした教育プログラムを開発することを目的とした。研究結果より、グローバル社会に対応できる保健師に必要な能力として、地域在住外国人の健康課題のアセスメント、関係機関との協働による課題解決、社会文化的特性に配慮した支援、健康に生きる権利の保障、異文化コミュニケーション、国際動向を踏まえた健康課題の予測、世界的視野から見た公衆衛生看護の思考が求められていることが明らかとなった。幾つかの能力は、保健師基礎教育において十分網羅されていない可能性があることから、これらの能力を向上できるような教育プログラムの必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保健師が取り組む健康課題は時代と共に変遷している。近年、国内の在留外国人数は増加し続けており、保健師が担う保健活動の対象としても一定の割合を占めている。また、感染症の世界的流行への備えや訪日外国人への健康支援ニーズも増加している。しかし、これらの活動は一部の保健師の経験に留まっており、保健師固有の実践知として共有されていない。本研究では、グローバル化に伴う様々な健康課題に対応できる保健師の能力を包括的に明らかにした。求められる保健師像が明らかになったことで、現行保健師基礎教育において強化すべき内容が明確になった。本知見は、保健師活動の学問的基盤である公衆衛生看護学の発展にも寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the competency of Japanese public health nurses (PHNs) in coping with global society and to develop educational programs through a qualitative approach. Results revealed that PHNs need competencies related to the following: assessing health needs of culturally diverse populations in the community, collaborating effectively with other professionals or organizations to meet immigrants' health needs, assessing health care needs of individuals and their family and providing culturally appropriate care, dealing with language barriers, advocating immigrants' health and basic rights to promote social justice, identifying potential public health issues related to global situations, and acquiring a global perspective of their roles and missions. Some competencies are not fully covered in the basic education for PHNs, suggesting the need for developing educational programs to improve these competencies.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 グローバル コンピテンシー 保健師教育 教育プログラム 在留外国人

1. 研究開始当初の背景

(1) 社会のグローバル化に伴い、保健師を取り巻く社会環境は大きく変化してきている。日本の在留外国人数は 220 万人を超え、永住資格者は年々増加している(法務省 2015)。また、国際結婚の急増や企業のグローバル化等に伴い、中長期に日本で生活する外国人は今後も増加することが予測され、保健師が対象とする地域住民の多文化・多民族化がさらに進むと推測される。在留外国人に対する感染症対策¹⁾²⁾や外国人母子に対する子育て支援³⁾等は新たな地域保健上の課題となっている。さらに、感染症の世界的拡大(パンデミック等)の懸念や地球温暖化による健康への影響、頻発する自然災害、非感染性疾患の増加等の地球規模の健康課題に対して、公衆衛生の最前線で取り組む保健師にとって、世界の動向を注視しながら活動することはもはや避けられない。

(2) 行政保健師の実践能力について、大倉⁴⁾はマネジメント能力の構成要素の一つとして「グローバルな視野」を明らかにしているが、その具体的な内容は示されていない。深い異文化理解に立ち、国際的視野を持ちながら国内外の健康課題に対応できる保健師の育成は急務であるが、具体的な保健師像や求められる実践能力はこれまで明らかになっていない。保健師活動は時代的背景や健康課題の変遷とともに変化してきている。グローバル化が進む現代において、新たに保健師に求められる実践能力を明らかにすることは時代のニーズに合致した保健活動を実施していく上で欠かせない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバル社会に対応できる保健師に必要な能力(グローバル・コンピテンシー)を明らかにし、グローバル・コンピテンシーの修得を目的とした教育プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

(1) グローバル社会に対応できる保健師像に必要な要素の抽出

国際保健又は国際看護に関わる保健師の実践に関する国内外の文献レビュー及び先進事例から得られた情報から、グローバル社会に対応できる保健師に求められる能力に関する要素を抽出・整理した。その一つとして、保健師にとって在留外国人支援が困難となる内容と支援の特徴を文献から明らかにすることを目的として、医中誌 Web を用い、キーワードを「保健師」「外国人/在日外国人/在留外国人」として文献検索を行った。検索対象期間を 2016 年 3 月までとし、会議録を除外した。その結果 60 の文献が抽出され、そのうち保健師による在留外国人支援について記載された 19 件をレビューの対象とした。文献から保健師が在留外国人を支援する際に困難となる内容と支援の特徴について記載されている文脈を抽出した。抽出した文脈を意味内容によって集約してコード化し、コードから順次抽象度を上げ、サブカテゴリー、カテゴリーを作成した。

(2) グローバル社会に対応できる保健師に必要な実践能力の明確化

日本国内において、1) 在留外国人を個別又は集団で支援した経験を持つ行政保健師(行政保健師経験 3 年以上)、2) 海外で国際保健活動に従事した経験を持つ行政保健師(保健師経験 5 年以上)、3) 国際保健に精通し保健師と関わった経験のある保健医療専門職を対象に、半構造的な個別インタビュー調査を実施した。対象の選定には、機縁法を用いた。インタビュー内容は、在留外国人を支援する上で困難に感じていること、支援する上で必要だと感じる知識や技術、国際保健活動経験の中で、現在の保健師活動に最も活かされていること、グローバル社会において、保健師に必要と考える知識や技術とその開発方法などである。面接内容は対象者の同意を得て IC レコーダーに録音したあと、逐語録として文字化し、質的帰納的に分析した。信頼性、妥当性を高めるためにすべての過程において研究者間で協議した。

(3) 教育プログラムの開発

複数の Web サイトを用いて過去 10 年間に発行された書籍のうち「公衆衛生看護学」「地域看護学」のいずれかをタイトルに含む書籍(シリーズを含む)を検索し、国家試験問題集、学会誌、訳本を除く 37 冊の書籍を抽出した。これらの中からグローバル化、国際、異文化に関する記述がある最新版の書籍 22 冊を対象にその内容を抽出し、カテゴリー化した。文献検討に当たっては、出版社等の情報をできる限り排除し公平かつ丁寧に読み込むことに努めた。

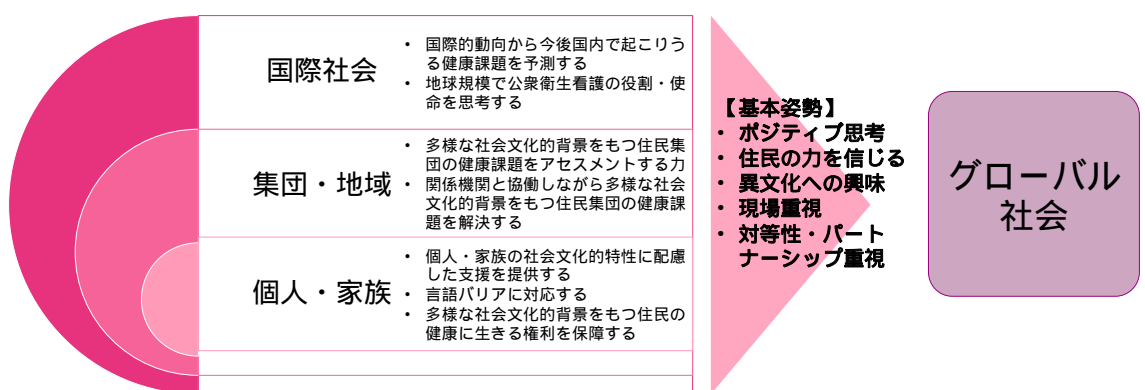
4. 研究成果

(1) 文献で取り上げられている保健師の主な支援分野は、感染症(9 件)及び母子保健(7 件)であった。保健師が在日外国人を支援する際に困難となる内容として、支援の継続が困難、対象とコンタクトを取ることが難しい等の『支援に労力を要する』や文化習慣の違いに起因する課題を抱え易い、意思疎通が困難といった『支援に特別なスキルや知識が必要』であること、日常業務での関わりが少ない等の『支援経験の積み重ねが困難』の 3 つが抽出された。保健師による支援の特徴として <コミュニケーションバリアに対応する> <根気よく支援する> <支援のための

外部サポートを確保する > < 多様な関係機関と支援ネットワークをつくる > < 文化を考慮した支援 > < 在留外国人支援に関わる地域の課題を明らかにする > < 外国人を対象に事業を実施する > が明らかとなった。保健師は、在留外国人の支援で困難を感じながらも、それらに向き合いつつ複雑なニーズを持つ対象に合わせて試行錯誤しながら保健活動を行っていることが推察された。

(2) 研究参加者は計9名で、全員保健師であった。うち5名は在留外国人の支援経験をもつ保健師、3名は国際保健活動に従事した経験を持つ保健師であった。行政保健師の経験年数は4年～18年の範囲であり、所属は市町村3名、都道府県4名、特別区が1名であった。分析の結果、77のコード、23のサブカテゴリーから、「多様な社会文化的背景をもつ住民集団の健康課題をアセスメントする能力」、「関係機関と協働しながら多様な社会文化的背景をもつ住民集団の健康課題を解決する能力」、「個人・家族の社会文化的特性に配慮した支援を提供する能力」、「多様な社会文化的背景をもつ住民の健康に生きる権利を保障する能力」、「言語バリアに対応する能力」、「国際的動向から今後国内で起こりうる健康課題を予測する能力」、「地球規模で公衆衛生看護の役割・使命を思考する能力」の7つのカテゴリーに集約された。また、前提となる基本的姿勢として、ポジティブ思考、先入観や偏見を持たない、異文化に興味を持つなどが抽出された。グローバル社会に対応できる保健師の実践能力として、多様なコミュニケーションスキルを活用しながら、異文化に対応した支援を提供する能力(カルチュラル・コンピテンス)、地域住民の多様性への対応能力、社会的公正から対象の健康を支援できる能力、国内の健康課題を国際的な視点からとらえる能力が重要であることが明らかとなった。社会のグローバル化は、地域の健康課題や保健師活動にも影響を与えていたことから、今後、これらの能力開発が必要であることが示唆された。

(3) 記述内容は「国際保健活動」、「社会情勢と文化の多様性」、「在留外国人への支援」、「諸外国の公衆衛生看護」、「その他」の5つに分類できた。「国際保健活動」には、< 国際保健活動の基本理念 > < 保健医療分野に関連する国際機関 > < 日本の国際協力 > 「保健医療分野の国際協力」以外に < 国際看護活動の現状 > < 国際保健活動に必要な能力 > 等8つのコンテンツが含まれていた。「社会情勢と文化の多様化」には < 異文化と多様性 > < グローバル社会と健康課題 > の2つが、「在日外国人への支援」には < 外国人母子の支援 > 以外に < 外国人労働者の支援 > < 外国人高齢者の課題 > < 異文化経験をもつ子どもの支援 > 等の5つが、「諸外国の公衆衛生看護」には < 保健師の専門能力 > < 公衆衛生看護活動 > 等の3つのコンテンツが含まれていた。「その他」には < 海外在留日本人の健康管理 > 等があった。保健師には、異文化コミュニケーションだけでなく、在留外国人の権利を守るための法律及び制度の知識、感染症等の健康課題の国際的動向を把握する能力等が求められているが、これらの内容は保健師基礎教育において十分網羅されていない可能性がある。行政保健師を対象とした教育プログラムの内容には、特に在留外国人の権利擁護と社会的脆弱性、コミュニケーションツール(医療通訳の活用を含む)、地球規模の保健医療に関する課題を含む必要があることが示唆された。



< 参考文献 >

- 1) 沢田 貴志.【国際化時代の保健活動を考える】 在日外国人を取り巻く状況と課題 感染症 在日外国人の結核・HIV 対策の鍵を握るのは、ケア・サポートの充実. 保健師ジャーナル 2006 ; 62(12): 1000-1003.
- 2) 星野齊之. 外国人の結核 在日外国人の結核 治療途中に帰国を希望した場合の対応について. 保健師・看護師の結核展望 2009 ; 47(1) : 69-72 .
- 3) 山下正, 松尾博哉. 保健師による外国人への母子保健サービス提供の現状と課題 愛知県

の市町村に勤務する保健師へのアンケート調査の分析から．国際保健医療 2012；27(4)：373-380．

- 4) 大倉 美佳．行政機関に従事する保健師に期待される実践能力に関する研究 デルファイ法を用いて．日本公衆衛生雑誌 2004；51(12)：1018-1028．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小寺さやか, 岩本 里織, 田中 祐子, 中世古恵美, 井上 清美
2. 発表標題 グローバル社会で求められる行政保健師のコンピテンシー
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小寺さやか, 田中祐子, 岩本里織, 中世古恵美, 井上清美
2. 発表標題 グローバル社会に対応できる保健師の実践能力～行政保健師へのインタビュー調査から～
3. 学会等名 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小寺さやか, 井上清美, 岩本里織, 田中祐子, 中世古恵美
2. 発表標題 保健師基礎教育におけるグローバル教育に関する文献検討
3. 学会等名 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中世古恵美, 小寺さやか, 岩本里織, 井上清美, 田中祐子
2. 発表標題 保健師による在日外国人支援の特徴に関する文献検討
3. 学会等名 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yuko Tanaka
2. 発表標題 Public health nurses' competency required for globalization in Japan: A qualitative study
3. 学会等名 8th International Nurse Education Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中世古 恵美 (Emi Nakaseko) (00513425)	姫路獨協大学・看護学部・講師 (34521)	
研究分担者	田中 祐子 (Yuko Tanaka) (10535800)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・准教授 (16101)	
研究分担者	岩本 里織 (Saori Iwamoto) (20321276)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・教授 (16101)	
研究分担者	井上 清美 (Kiyomi Inoue) (20511934)	姫路獨協大学・看護学部・教授 (34521)	